

令和８年度 高校生と東広島市議会の意見交換会
「議員としゃべろう！～高校生×東広島市議会 class～」
実施報告書

学校名	近畿大学附属広島高等学校
開催日時	令和８年７月２１日（火）１４：００～１５：３０
会場	近畿大学附属広島高等学校 １階会議室
参加生徒	近畿大学附属広島高等学校１～３年生の参加希望者 ２１人
参加議員 （グループ別）	A：木村 輝江、岩崎 和仁 B：片山 貴志、乗越 耕司 C：中川 修、重森 佳代子 ※ 奥谷 求 議長（挨拶のみ）
テーマ	魅力あふれるまちづくり

１ 意見交換会の概要

（司会：木村議員）

- ・ 開会挨拶（奥谷議長）
- ・ 自己紹介（全参加議員）
- ・ 市議会の役割等について
市議会の役割等について説明（片山議員）
- ・ 意見交換
A～Cの３グループに分かれ、生徒側の発表班（各グループ２～３班）がスライドを用いて発表したのち、その内容について意見交換
- ・ まとめ
各グループの生徒及び議員から感想等を発表

２ 高校生からの提案及び意見交換の内容

【Aグループ】

（１）「若者が遊べる場所を作ろう！」

- ・ 市内に学生が遊べる場所が少なく市外へ出かけるケースが多いため、ブルーバール通り付近を「のん太通り」とし、スポーツ満喫エリア、若者ストリート、フードエリア・イベント広場を整備する提案があった。
- ・ 生徒主体団体「近高オールスターズ」の活用や、施設規模・設置場所・整備費用・運営主体といった現実的課題について意見交換を行った。

（２）「学校で行われるごみ分別～学校教育を通じたごみ分別意識の醸成」

- ・ 家庭と異なり学校の教室に可燃ごみ箱が１つしかない疑問から、ごみ分別や減量の意義、事業系ごみと家庭ごみの違いについての調査結果が発表され、学校におけるごみ分別の細分化を行うことで分別意識を身につけることができるのではないかと提案があった。
- ・ 分別による教育効果や校内での実態調査・無理のない分別方法の試行、市からの分かりやすい情報発信の充実などについて意見を交わした。

（３）「若者が暮らしやすいまちづくり」

- ・ 暗い通学路への街灯増設・ＬＥＤ化や、ボール遊び制限を考慮した公園整備・改修の提案があ

った。

- ・ 防犯灯設置における自治会・行政の連携手順や、公園整備における費用・利用ルール（時間帯やエリア設定など）について意見を交わした。

【Bグループ】

（４）「子どもたちが健康で楽しく暮らせるために スポーツパークをつくろう！～よりよい東広島へ」

- ・ 公園でのボール遊び禁止等の制約や運動時間減少を受け、旧東高屋小学校跡地などを活用した予約不要・無料のスポーツパーク（フェンス付き広場や多世代向け遊具）建設が提案された。
- ・ 健康寿命延伸や定住促進が期待できる一方、スマホ利用の影響、将来の維持管理費（若者世代の負担）、跡地利用における地域住民の意向調整の必要性といった様々な課題があることなどが議論された。

（５）「町の文化財から考える教育と人口流出の緩和」

- ・ 通う校区以外の市内文化や歴史を知る機会が少ないため、市内他校との定期的な交流会を開催し、地域への誇り（シビックプライド）を育む提案がなされた。
- ・ 授業時間の確保等の課題はあるものの、地域愛を育て将来の人口流出防止やUターン定住につなげる有意義な視点として評価された。

（６）「東広島市の交通問題」

- ・ 通学・移動時のバスや電車の本数不足、高屋駅周辺などの狭く危険な通学路の課題が指摘された。
- ・ バス増便、空港アクセスの強化、竹原市との合併案やPRキャラクター（のんかぐぼんだ）の活用が提案され、道路整備における地域協力の必要性やマイカー普及・ドライバー不足による公共交通維持の難しさを共有した。

【Cグループ】

（７）「道路について—自転車 my way—」

- ・ 道路交通法改正による自転車青切符導入を踏まえ、標識や危険箇所の調査発表がなされ、安全教室の実施や通行位置の明確化が要望された。
- ・ 市による矢羽根表示の設置状況や、警察（県公安委員会）との役割分担、地域・行政・警察との情報共有の重要性を確認した。

（８）「公立学校の教育機関」

- ・ 河内高校と賀茂高校の統合に関して、教職員の負担、移動時間、スクールバスの導入、少人数教育の維持など生徒視点からの質問・意見が出された。
- ・ 県立高校統廃合の基準（学級数等）や多様な学びを保障する視点について議論し、デジタル機器・生成AIの適切な活用や情報リテラシーの必要性についても認識を共有した。

3 議員の所感

- ・ 日常の不便や疑問を出発点とした幅広い提案は、整備後の運営や財源・地域住民との合意形成まで考慮する必要があるものの、生徒が主体的に課題を調査し、解決策を考え、議員と意見を交わしたことは地方自治への関心を高める上で大変意義深かった。今後も若い世代の意見を議会の議論に反映するとともに、高校生が地域活動に参加・実践できる仕組みづくりを検討していきたい。

- ・ 学生の発想が豊かで、費用対効果の高い施策から着手する提案など、よく考えられていると感じた。学生の課題意識は議員活動の実感と共通する部分も多く、今回の提案を何らかの形で施策につなげることで、地方自治への参画をより実感してもらいたい。
- ・ 「議員との気軽な交流」か「高校生からの提案を受ける」ことか、会の目的の位置づけをより明確にする必要があると感じた。1班あたり約20分という時間制限のため「魅力あふれるまちづくり」について深く広く議論しきれなかった点は惜しまれるが、等身大のリアリティある課題を提示してくれたことに感謝したい。
- ・ 自らの実体験やデータをもとに、スポーツパークや交通・シビックプライド醸成など多角的な提案をしてくれたことに大変感銘を受けた。主体的に「どうすれば市が良くなるか」を考える姿は頼もしく、出された柔軟なアイデアを今後の議会活動やまちづくりに活かしていきたい。
- ・ 生徒自らが通学路を調査・マップ化し、提案にまとめた取組は大変意義深い。今後、学校内にとどまらず、地域や行政、警察とも共有することで交通安全対策につながることを期待するとともに、現場の声を受け止め政策改善につなげていく市議会の役割を再確認した。
- ・ 私立高校生が県立高校の再編に関心を持ち、同世代の学びの環境を調査したことに敬意を表する。
- ・ 生徒が自ら地域や社会の課題を見つけ、その原因を調べ、解決策を考えたことに大きな意義を感じた。身近な課題に一人一人が関心を持ち、調べ、考え、伝えることは、年齢にかかわらず民主主義を支える大切な取組であり、こうした力を育てることも教育が果たす重要な役割であると再確認した。
- ・ 今回の意見交換を、若い世代の意見を聞くだけで終わらせることなく、今後の政策や地域課題の改善につなげていくことが市議会の役割だと感じた。

4 その他特記事項

- ・ 放課後の時間を使い、90分間で開催した。
- ・ 参加者は学校側で募集し、1～3年生24人が集まった（当日欠席者あり）。参加希望生徒に関心のあるテーマを基に班分けし、各班で取材・調査して発表スライドを作成のうえ、当日発表して議員と意見交換を行う形で実施した。事前に生徒が主体的に調査し自分の考えを資料にまとめ、発表するというプロセスを経ることで、より学習効果や主権者教育としての効果が高まった。一方で、学校側への負担も大きくなるため、本取組を継続するにあたっては各学校の特色や意向に合わせた柔軟な対応が必要である。

